

# 株式会社 Kalm 角山の取組

Trust & Promise



**発表者：専務取締役 川口谷 仁**

## 講演者略歴

昭和47年 1月生まれ

東京都板橋区出身、3人の息子の父

平成 7年 4月 中小企業向けノンバンクに就職

平成12年 6月 同社退職、関ファーム(札幌市)へ転職

(妻の実家のある北海道へ移住)

平成19年 9月 牧場を江別市角山へ移転

平成20年 4月 酪農教育ファームの認証取得

平成26年 1月 (株)Kalm角山 専務取締役就任

至 現職

# 会社概要

- 設立： 平成26年1月  
 資本金： 3000万円(設立時500万円)  
 住所： 江別市角山  
 構成員： サツラク農協組合員 5名  
 他 9名(平成30年9月現在)



## 理念

企業理念： Aim to **Kalm** future!  
 穏やかな未来を目指す

Kalm=穏やかな(オランダ語)

○私たちは、酪農家集団であり、その生業は牛から頂く「いのち」を糧としている。私たちは常に牛に感謝する。

○私たちは、祖先・先輩方から預かった資源に感謝すると共に、常に素人集団として既存の概念に捕われず、創造性を発揮し業界発展の為に先駆者となり貢献する。

○私たちは、生産者としての社会的責任を果たす為、農場HACCP・JGAPシステムの運用に裏付けされた信頼と約束を果たし、消費者に対し正直に、安心・安全な生乳を安定的に供給する

○私たちの明確なビジョンと目標設定は、常に家族・地域社会・サツラク農業協同組合の幸せと発展に密接に関わり合うことを意識し、達成の為に行動に全力をつくす。

○私たちは、Kalm 角山の向上発展の為に、一致団結し凡事徹底、業務に取り組む。

## 設立趣旨

1. 協業法人化により、スケールメリットを活かした**作業能率の向上**、**生産コストの削減**を図り、**永続的営農環境を整える**
2. 江別市角山地区の**生産基盤の維持保全**と**地域の発展**に貢献する
3. 生乳の安定供給により、サツラク農協を通じ消費者へ**安全で良質な牛乳を提供**する



## 事業規模

- 敷地面積2ヘクタール、総事業費15億円
- 480頭フリーストール牛舎、自動搾乳ロボット8台
- 乳牛560頭、年間生乳出荷量5,600t(平成30年度目標)
- 平成29年生乳出荷量実績4,833t
- 100頭哺育舎
- 150kwhバイオガスプラント施設

フリーストール牛舎とフィードプッシャー



バイオガスプラント施設



# 沿革

- 平成26年 1月 設立**
- 平成27年 8月 フリーストール牛舎完成**
- 平成27年 8月 自動搾乳ロボット稼働開始**
- 平成27年11月 バイオガスプラント施設稼働開始**
- 平成27年12月 自動搾乳ロボット 全8台稼働開始**
- 平成28年 7月 農場HACCP認証取得**
- 平成28年 視察件数241件2,236名**
- 平成29年 5月 社外取締役登用**
- 平成29年 6月 資本金3,000万円へ増資**
- 平成29年11月 JGAP認証取得**

## 特色 自動搾乳ロボット



8台(アジア最大級)

24時間自動搾乳

首輪につけたセンサーで個別管理

乳量・乳質データも一元管理

作業効率向上・生産コスト削減

## 特色 自動搾乳ロボット



乳頭の位置を  
センサーが正確に  
探知



牛舎を自由に歩き回る乳牛  
首輪のセンサーで管理し  
搾乳に適した状態の時のみ  
搾乳ロボットのゲートが開く

## 特色 ハードナビゲーター



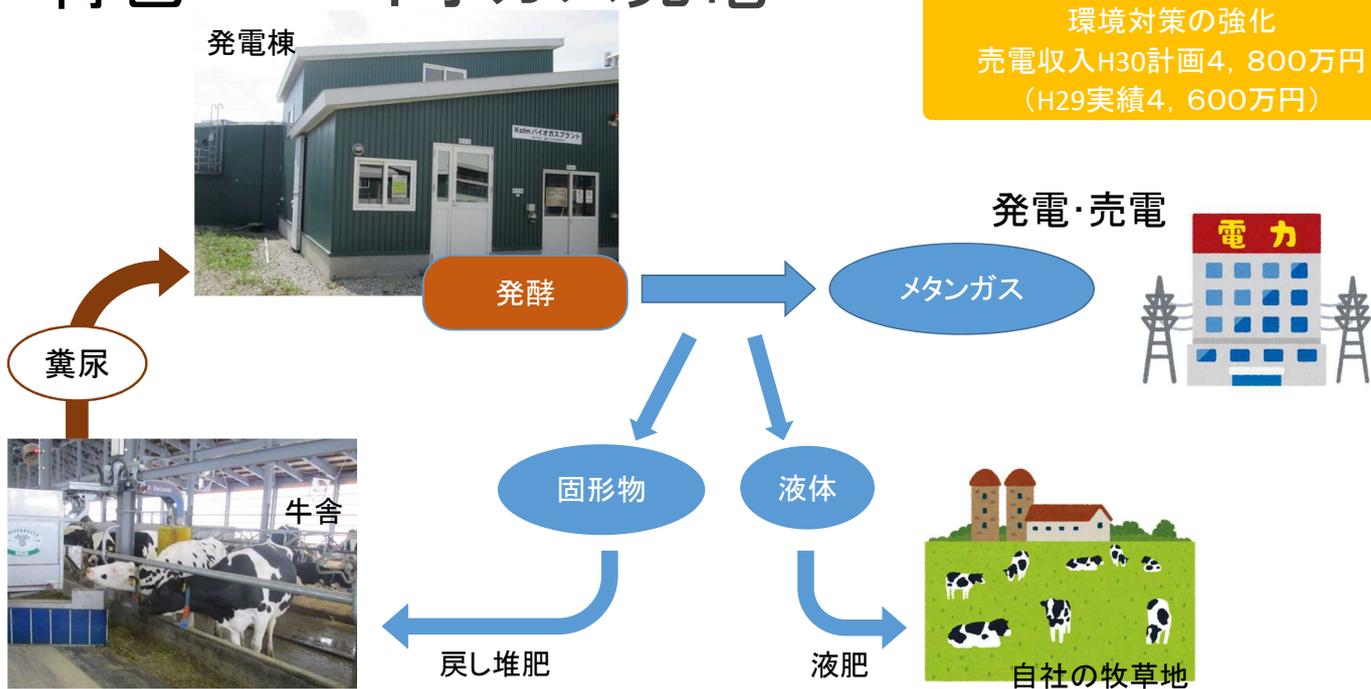
日常作業の軽減  
乳質向上  
動物福祉の実現

### 最先端の疫病繁殖管理システム

- ①繁殖と発情管理: プロゲステロン測定  
⇒ 発情と鈍性発情、流産、卵胞嚢胞、  
発情休止の発見
- ②乳房の管理: LDH-乳酸脱水酵素測定  
⇒ 乳房炎、潜在性乳房炎の発見
- ③給餌: BHB-βヒドロキシ酪酸測定  
⇒ 臨床型・潜在性ケトーシスの発見

# 特色 バイオガス発電

発電能力150kwh  
 循環型農業  
 環境対策の強化  
 売電収入H30計画4,800万円  
 (H29実績4,600万円)



# 特色 農場HACCP/JGAP認証取得

作業の平準化  
 安全な牛乳の供給

安心・安全から  
 信頼と約束へ



# 農場HACCP/JGAP認証取得までの歩み

- **2016年1月**から文書作成等を開始
  - **2016年5月上旬**に申請文書提出
  - **2016年6月末**に審査受審
  - **2016年7月12日**に農場HACCP認証取得
  - **2017年9月2日**にJGAP申請文書提出
  - **2017年10月21日**に審査受審
  - **2017年11月13日**にJGAP認証取得
- 

## 農場HACCPの特徴

- 軸足は農場
- 主目的は農場の仕組み作り
- CCPで管理 → 食の安全性確保
- 人・組織のマネジメント、教育・訓練を重視
  - 仕事の質の向上
  - 生産性の向上
- 外部の内部検証員が改善の仕組みを審査

# < 2018年 衛生管理目標 >

文書番号：21

- 1 牛舎内の整理整頓を心がけ、清潔感のある牧場を目指す。
- 2 バルク乳体細胞30万個/mI以下、生菌数3万個/mI以下を遵守する。
- 3 ただし、運用上の指標（日常的な管理目標）は以下とする。
  - ・バルク乳体細胞15万個/mI以下
  - ・生菌数1万個/mI以下以上を維持する。
- 4 休薬期間中の生乳、血乳、洗剤・殺菌剤等が混入しない生乳生産を維持する。

なお、衛生管理目標は年1回見直す。

作成者：川口谷 仁

承認者：百瀬 誠記

作成日：2018年1月1日

## JGAPの特徴

- ・軸足は流通業界
- ・主目的は製品の表示要望を満たすこと
- ・労働安全、環境保全、アニマルウエルフェアの充実に要求
- ・CCPの管理は要求されない
- ・自給飼料の管理工程も審査範囲に入れることは可能
- ・チェックは自己点検

衛生管理  
規程書

報告管理規定	「特定事項への備え」に対する規定-5	文書No.	275
対象	自然災害が発生した場合の連絡体制	制定日	2016.5.1
		改訂日	
規	<p>1. 対応責任者：経営者（経営者不在の時はHACCP責任者が対応）</p> <p>2. 危害の種類</p> <p>①牛舎の火災</p> <p>②地震、台風、降雪、噴火等による牛舎の倒壊</p>		
定	<p>3. 牧場での対応</p> <p>（火災が発生した場合）</p>		
事	<p>①火災を発見した従事者は直ちに消火作業に当たり、延焼を防ぐための対策を講ずる。</p> <p>②従事者は消火及び延焼を阻止できないと判断した場合、直ちに消防署に通報する。</p>		
項	<p>③従事者は対応責任者に連絡する。</p> <p>（牛舎が倒壊した場合）</p> <p>①従事者は牛舎が倒壊したことを対応責任者に報告する。</p> <p>②対応責任者は牛舎の倒壊状況や牛の生存状況等を確認する。</p> <p>（停電の場合）</p> <p>①従事者は停電が発生したことを対応責任者に報告する。</p> <p>②対応責任者は停電状況や業務状況等を確認後、北電へ連絡する。</p> <p>③対応責任者は自家発電使用の有無を従事者へ指示する。</p>		
	<p>4. 連絡先：緊急連絡網のとおり</p>		
記録	①特定事項発生時の対応記録 ②外部・内部情報連絡票		
マニュアル類			
法規制等			

作成日：2016. 2. 1

作成者：川口谷仁

承認者：百瀬誠記

## 農場HACCP認証取得を目指したのは、

- ・5牧場の経営者の協業体であるため、作業の**平準化**が必要
- ・生産性の向上を目指す
- ・食の安全と商品の差別化を目指す
- ・スタッフの質の向上を目指す

# JGAP認証取得を目指したのは

- ・製品販売先に対する表示要望が主目的
- ・食品安全のほか、労働安全・環境保全が範囲
- ・オリパラ基準で注目され、農場内改善システムとしてのHACCPがぼやける懸念

## 当社における農場HACCPとJGAPの関係

農場HACCP  
:システム認証

HACCP計画策定等による食の安全確保

作業の平準化と継続的改善による  
生産性の向上

教育・訓練等による人・組織の充実  
強化

JGAP  
:製品規格認証

- ・農場管理
- ・食品安全
- ・家畜衛生
- ・環境保全
- ・労働安全
- ・人権の尊重
- ・アニマルウェルフェア
- ・危機管理

当社では  
当たり前  
に実施

# 農場HACCP/JGAPのキーワード

人、ひと、ヒト

目標達成のシステム

プライオリティ

信頼と約束

燃え上がる願望の達成を描く信念

:ナポレオン・ヒルの成功哲学

悠々として急げ！



ご静聴有り難うございました。